

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年7月21日～7月27日)

2020年7月29日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- 欧州評議会、ベラルーシ大統領選挙へ監視団を派遣しない旨、発表(7/21)
- エネルギー省、オストロヴェツ原発第一ブロック物理稼働を8月に開始予定を確認(7/22)
- チハノフスカヤ候補、ベラルーシ各地で選挙集会を実施(7/25～26)

【ルカシェンコ大統領動静】

●ミンスク州ネスヴィシ地区を訪問(7/27)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・穀物の今年の収穫高は少なくとも 9.5 百万トンである。8 百万トンが米・小麦系であり、残り 1.5 百万トンがトウモロコシである。
- ・農業従事者への給与は惜しむことなく払って欲しい。不平等があってはならない。誰が大統領であろうと、誰が州知事であろうと、食べ物は常に必要である。90 年代の繰り返しを許容してはならない。

(7/27 大統領公式ホームページ)

●ミンスク州ブホヴィチ地区を訪問し、マリナ・ゴルカ市第 5 特殊部隊を視察、同市住民と交流(7/24)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・2010 年以降、国防軍に予備軍を用意しておく必要があると理解した。無論、軍に力を借りることは望ましくはないが、何事も起きうる。
- ・その最たる例が米国である。米国の幾つかの州では軍隊が出動している。現在米国で起きていることは、誰も予期していなかったし、全世界にとって大惨事である。米国大統領がこの圧力に耐え抜けば、それは我々にとっても良い兆候である。
- ・近年、あらゆる戦争は、市内のデモから始まり、マイダンとなる。我が国にはマイダンを起こす人は少ないが、他国からその勢力を集結させることもあろう。彼らは、民間軍事会社で訓練された専門的な軍事集団であり、他国家の扇動で資金を稼いでおり、リビア、イラク、シリアで活動していた。管理された混沌である。

(7/24 大統領公式ホームページ)

●習近平国家主席に対し、中国における大雨や水害に関する哀悼の意を表明(7/23)

(7/23 大統領公式ホームページ)

●ベラルーシ国内経済団体との会議出席(7/23)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・選挙運動が終わり、国内政治熱が冷めた後も、経済が社会の注目の的となる。経済の問題は消えることはない。国民にもっと歩み寄ってほしい。人々と話し合い、人々に政策を説明して欲しい。

・また、あなた方は報道に対しより注意を向けて欲しい。インターネット空間だけでなく、新聞など伝統的なメディアにおいても、偏向的な報道が目立ち始めている。あなた方は国の支配者であり、全ての義務を履行する必要がある。できないなら、できないと言って欲しい。代わりに他の者が行う。大統領の具体的な命令を待つ必要はない。「BBC」、「自由」、「自由な欧州」などのメディアは偏向的な報道に留まらず、大規模な無秩序を呼びかけている。なぜあなた方は我慢しているのか。

・賃金について、平均値で見れば、以前政府が約束した最低賃金の基準を超えたが、多くの国民の収入は同基準値を下回っている。何もせず喚いている者には不要であるが、稼ぐ努力をしている者の給与を上げるようにどのような施策が取れるか報告してほしい。

・就業率について、ベラルーシで深刻な問題は無い。しかし、大国においても秩序維持に必要な安定性が不足し始めている。就業率の高さは、人工的に作り上げるのではなく、安定的かつ効率的な実際の仕事から保障されるものである。また、大規模なリストラも

許容してはならない。

(7/23 大統領公式ホームページ)

●ゴメリ州を訪問し、ゴメリ市中央病院の開設式に出席、同州の活動家と会談を実施(7/21)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・ポレシエ復興は大統領にとって重要な仕事の一つである。チェルノブイリ原発事故で影響を受けたこの地域にはどの地域よりも頻繁に足を運んでいる。ソ連崩壊後、同事故の克服をしなければいけなかった時代を覚えている。ゴメリの地に住むべきであると確信するため多くのことを行ってきた。我々はゴメリを救った。

・ゴメリ訪問の道中、土壌改良に関する問題があるように感じた。直近 1~2 年で土壌を改良していく必要がある。また、灌漑に関する最新技術のより積極的な活用が必要であろう。

・保健分野において、我々はゴメリ州で非常に強力な医療基盤を整備した。ゴメリ州の医療関連の統計数値を確認した。欧州と比較しても劣らない。我が国、そしてゴメリ州ではチェルノブイリ原発事故の克服に関する独自の知見が蓄積された。先進国日本人々も、我々と共に取り組んでいる。彼らに感謝しなければならない。

(7/21 大統領公式ホームページ)

外交

●マケイ外務大臣、ラトビアを訪問し、リンケヴィチ・ラトビア外務大臣と会談。

会談後の記者会見におけるマケイ外務大臣の発言要旨は以下の通り。

・ベラルーシにおける選挙は、ベラルーシの法律に従い実施される。本大統領選挙には現職大統領に加え、残り 4 名の反対派を含む、計 5 名の参加者が許可された。そのため、反対派の選挙参加を許容しなかった、と言うべきではない。

・幾つかの候補者は選挙登録を却下されたが、これは相応に論証された証拠に基づいて行われた。ある者は、マネーロンダリングに関連した刑事事件により

拒否された。マネロンは、ラトビアでも、そしていかなる国でも厳格に罰せられることであろう。遅かれ早かれこの情報は社会に公開されると信じて欲しい。またある者は、署名数が足りなかったため却下された。

・実際に、市内における拘束はあった。しかしこれらは、ベラルーシの法律や規則を違反した者に対する罰則である。ベラルーシであろうが、ラトビアであろうが、いかなる国においても選挙活動は開放的かつ、透明性をもって、そして公正に実施されるべきであろう。しかし、SNS 等現代的手法が、具体的な反政府行動の扇動や、選挙管理委員会メンバー等の国家公務員に対する脅迫、治安機関の職員に対する脅迫のために用いられている。我々は、これらは許されることではないと考える。

・本状況において人権は遵守されるべきである。ベラルーシの国家権力の組織は、選挙活動が厳格に法律と人権の遵守に基づいて実施されるよう目指していることを信じて頂きたい。しかし、ベラルーシ政府は、国と社会を人為的に不安定化させること、そして、独立と主権を失う可能性を許容できない。

(7/24 ベラパン通信)

●クラフチェンコ外務次官、ブリュッセルを訪問し、EU・ベラルーシ不定期協議会に参加(7/23)

参加者は、EU・ベラルーシの相互関係の展望、ベラルーシの東方パートナーシップへの参加、核安全保障に関する協力、大統領選挙を含む人権問題、新型コロナウイルス感染対策に関するベラルーシに対する支援について協議した。

(7/23 ベラパン通信)

●CIS 執行委員会、ベラルーシ大統領選挙へ監視団の派遣を決定、セルゲイ・レベジェフ同委員長が監視団長を務める予定。

(7/21 ベラパン通信)

●欧州評議会、ベラルーシ大統領選挙へ監視団を派遣しない旨、発表(7/21)

(7/21 ベラパン通信)

経済

●2020年1月～5月赤字企業数、去年同期対比6.4倍増加。

(7/27 ベラパン通信)

●2020年6月、ベラルーシ平均月給、1248.9ルーブルと前月対比1.7%減少。

(7/24 ベラパン通信)

●EBRD、2020年上半期のベラルーシへの投融資額、去年同期対比2倍超の増加。

EBRDの2020年上半期の投融資額は160百万ユーロである一方、去年同期は67百万ユーロであった。

(7/22 ベラパン通信)

●エネルギー省、オストロヴェツ原発第一ブロック物理稼働を8月に開始を確認(7/22)

ポリュハヴィチ・エネルギー省核燃料局長は「現在、第一ブロックの作業は98%完了している。現在装飾・整備作業が行われている。5月に燃料が運送され現在倉庫に保管されており、8月に稼働する予定である。また、第二ブロックの作業は72%完工している。」と発言した。

(7/22 ベラパン通信)

●ゴロフチェンコ首相、2021年のGDP成長率目標値を3.5%と公表。

(7/21 ベラパン通信)

軍事・内政

●チハノフスカヤ候補、ベラルーシ各地で選挙集会を実施(7/25～26)

同候補は7月25日～26日にかけて国内各地を訪問し、選挙集会を実施。各都市における集まった人数は以下の通り。

ゴメリ州ゴメリ市(7/26):1万名以上

モギリョフ州バブルイスク市(7/25):約6千名

ヴィテプスク州オルシャ市(7/25):約3千名

ゴメリ州レチツェ市(7/26):2千名以上

その他、グロドノ市やブレスト市などで同候補不在の中同候補支持の政治集会が実施され、それぞれ約1千名、約2.5千名が集まった。

(7/25,26 ベラパン通信)

●ツェプカロ氏(注:支持署名数未達により登録却下となった大統領選挙候補、元駐米大使、元ハイテクパーク事務局長)、ベラルーシ国外へ逃亡。

(7/24 ベラパン通信)

●ツェプカロ氏、人民統一委員会の設立を提唱。

(7/22 ベラパン通信)

●中央選挙管理委員会、新型コロナウイルス対策として選挙当日、期日前投票における各投票所の監視員数をそれぞれ5名、3名へと制限することを決定。

(7/22 ベラパン通信)

(了)